

全国学力・学習状況調査を活用した

授業づくり参考資料

【小学校】



掲載事例

【国語】

- ・書くこと 〔2〕三

伝統工芸品について推薦するちらしを書く

【算数】

- ・データの活用 〔1〕(2)

目的に応じて適切なグラフを選択してデータの特徴や傾向を捉え判断し、その判断の理由を表現する

【理科】

- ・エネルギー 〔2〕(4)

目的に合わせて乾電池2個のつなぎ方を構想する

活用にあたって

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の問題から考えられる「授業づくり」のポイントや、指導の手だての例を掲載しています。子どもたちへの指導の参考例としてご活用ください。

活用のポイント例

自校の状況をもとに考えよう

「1. 問題の概要」を活用して

「出題の趣旨」や「学習指導要領の内容」、「評価の観点」から

「どのような力を身に付けるのか」をつかみましょう。

資質・能力

「正答の条件」や「正答例」から

「どのような姿をめざすのか」をつかみましょう。

「2. 児童・生徒の状況(解答類型抜粋)(質問紙調査)」を活用して

「解答類型」や「経年比較のグラフ」から

「どのような姿なのか」をつかみましょう。

具体的な
児童・生徒の状況

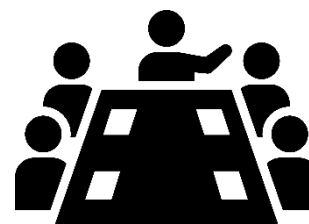
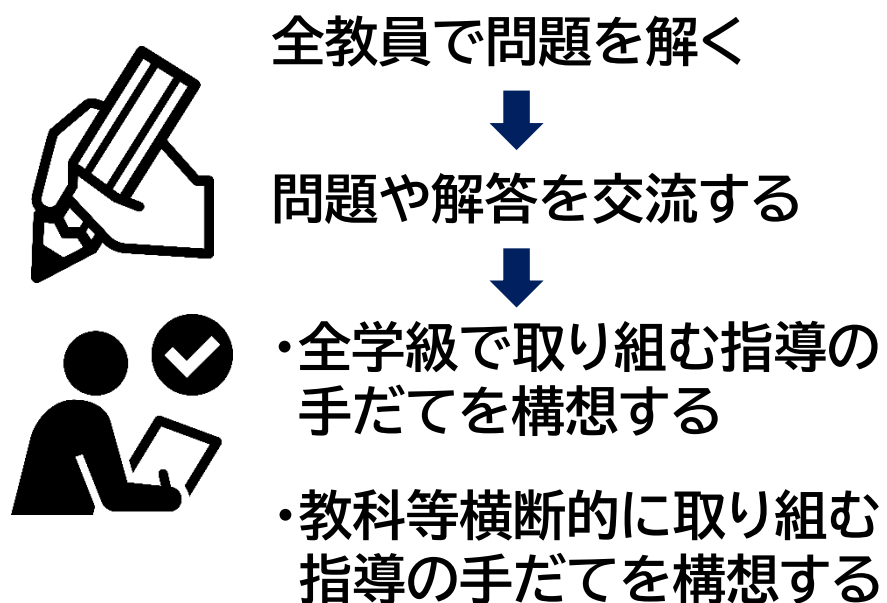
「3. 授業づくりのポイント」を活用して

「授業づくりのポイント例」から

「どのような指導ができるのか」をつかみましょう。

指導の手だて

全国学力・学習状況調査の活用例



自校の解答類型を分析する



子どもの課題を把握する



学校で取り組む重点目標を構想する



解説資料や授業アイデア例を活用した研修をする



授業アイデア例で示された指導を実際に授業で取り入れる

参考

国立教育政策研究所 「教育課程研究センター「全国学力・学習状況調査」

<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html>



1. 問題の概要

出題の趣旨

目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる。

学習指導要領の内容 第5学年及び第6学年 B 書くこと ウ

目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。

評価の観点 思考・判断・表現

三 山田さんは、【ちらし】の書き表し方について友達に相談し、【ちらし】の二重傍線部をくわしく書いたほうがよいと考え、次の【調べたこと】を見直しました。あなたが山田さんなら、どのように書き直しますか。あとの条件に合わせて書きましょう。

【調べたこと】

（本を読んで分かったこと）	（使ってみて分かったこと）
○ブックカバー ・何冊か折るだけで、すぐに完成する。 ・本の大きさに合わせて包むことができる。	○ブックカバー ・よごれがつくのを防ぐことができる。 ・落としたときに、本がきずづかなかった。
○ペットボトルカバー ・ペットボトルを包んで持ち運ぶことができる。	○ペットボトルカバー ・水が容器につかなくてよかった。 ・温かい飲み物が冷めにくかった。

物を包む使い方
手ぬぐいは、いろいろな物を包むことができます。

条件

- 【ちらし】の二重傍線部を書き直し、詳しくすること。（一文でなくてもよい。）
- 【調べたこと】の＜本を読んでわかったこと＞と＜使ってみてわかったこと＞のそれぞれから言葉や文を取り上げて書くこと。
- 60字以上、100字以内にまとめて書くこと。

正答条件

- ① 【ちらし】の二重傍線部を書き直し、詳しくしている。
- ② 【調べたこと】のうち、以下のことから言葉や文を取り上げて書いている。
 - a <本を読んで分かったこと>
 - b <使ってみて分かったこと>
- ③ 60字以上、100字以内で書いている

※上の情報用紙は下書き用なので、使っても使わなくてもかまいません。
解答は、解答用紙に書きましょう。
※★の印から順番に書きましょう。どちらかで行を戻さないで、続けて書きましょう。

2. 児童の状況（解答類型と反応率）

	解答類型	正答率(%)
1	条件①、②a、bの両方、③を満たしているもの	57.7
2	条件①、②a、bの両方は満たしているが、条件③は満たしていないもの	0.6
3	条件①、②aは満たしているが、条件②bは満たしていないもの	9.6
4	条件①、②bは満たしているが、条件②aは満たしていないもの	12.2
5	条件①は満たしているが、条件②a、bは共に満たしていないもの	9.6
99	上記以外の解答	4.8
0	無解答	5.4

※3、4、5において、条件③を満たしているかどうかは不問とする。

31.4%（回答類型3、4及び5）の児童が条件②のa、bまたは両方を満たさずに書いている。問題の条件には「【調べたこと】の＜本を読んでわかったこと＞と＜使ってみてわかったこと＞のそれぞれから言葉や文を取り上げて書くこと。」と示されている。二つの情報に触れて考えをまとめることにおいて、課題があると考えられる。

3. 授業づくりのポイント



「考えの形成」に至るまでの学習過程を大切にしましょう。

表現する上で、「題材の設定」「情報の収集」「内容の検討」「構成の検討」等、どの段階で児童のつまずきが見られるのかを把握することで、支援に生かすことが大切です。



言語活動において、自分の考えが伝わるように、書き表し方を工夫することをより一層意識させましょう。

「書くこと」の領域においては、文章を書く目的や意図に応じて伝えたいことを明確にすることが大切です。読み手の立場から「どこを詳しく書く必要があるか」「どこを簡単に書いた方が効果的か」判断しながら書き表し方を工夫する場面や、友だちに自分の考えが伝わったかアドバイスし合う場面などを設定することが大切です。



情報と情報の関係を捉えて考えをまとめる経験を積みませましょう。

複数の情報を整理して考えを、まとめる活動を意図的に取り入れるようにする。その際、他教科等でも活用できる資質・能力が育まれるよう意識することが大切です。

【小学校算数】 目的に応じて適切なグラフを選択してデータの特徴や傾向を捉え判断し、その判断の理由を表現すること。（データの収集とその分析）^①（^②） （都道府県Aのブロッコリーの出荷量が増えたかどうかを調べるために、適切なグラフを選び、出荷量の増減を判断し、そのわけを書く）

1. 問題の概要

出題の趣旨

目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる

学習指導要領における領域・内容
第3学年 D データの活用(1)ア(イ)・第5学年 D データの活用(1)ア(ア)、(1)イ(ア)

- ・棒グラフの特徴やその用い方を理解すること。
- ・円グラフや帯グラフの特徴とそれらの用い方を理解すること。
- ・目的に応じてデータを集めて分類整理し、データの特徴や傾向に着目し、問題を解決するために適切なグラフを選択して判断し、その結論について多面的に捉え考察すること。

評価の観点

思考・判断・表現

(2) あいりさんは、自分たちが住んでいる都道府県Aのブロッコリーの出荷量が、増えたかどうかを調べています。調べていると、2013年と2023年について、右のグラフ2とグラフ3を見つけました。

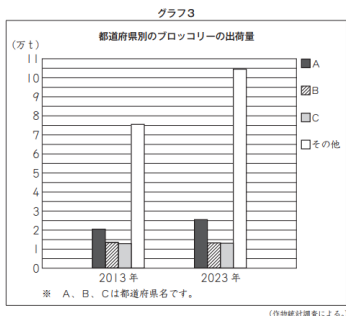
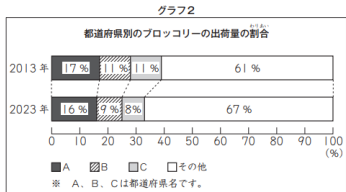


グラフ2とグラフ3を見つけたけれど、どちらか1つのグラフを見れば、都道府県Aのブロッコリーの出荷量が、増えたかどうかわかります。

2023年の都道府県Aのブロッコリーの出荷量が、2013年より増えたかどうかを、下のアとイから選んで、その記号を書きましょう。
また、その記号を選んだわけを、言葉や数を使って書きましょう。そのとき、どちらのグラフのどこに着目したのかわかるようにしましょう。

ア 2023年は2013年より増えた。

イ 2023年は2013年より減った。



正答(例)

【記号】ア

【わけ】グラフ3を見ると、2013年の都道府県Aのブロッコリーの出荷量は約2万t、2023年の都道府県Aのブロッコリーの出荷量は約2.5万tで2023年のほうが多いです。だから、都道府県Aのブロッコリーの出荷量は増えています。

2. 児童の状況（解答類型抜粋）

記号をアと選び、次の①、②の全てを書いている。 ① グラフ3に着目したことを表す言葉 ② 2023年の都道府県Aのブロッコリーの出荷量が、2013年より多いことを表す言葉や数			
	記号	わけ	反応率(%)
正答	1	①、②の全てを書いているもの	28.6
	2	①を書いているもの	21.4
	3	アと解答	5.4
	4	②を書いているもの	15.9
	5	類型1から類型3以外の解答	15.9
	6	無解答	2.9
	7	都道府県Aのブロッコリーの出荷量の割合について書いているもの	18.1
	8	類型6以外の解答	4.4
	9	無解答	1.3
	99	上記以外の解答	1.1
	0	無解答	0.9

「2023年は2013年より増えた」と判断できているにも関わらず、判断した理由の説明が不十分(他者に伝わらない説明)になっていると考えられる。

3. 授業づくりのポイント

✓ 目的に応じて、複数の資料から適切な表やグラフを選択するために、様々な表やグラフの特徴を正しく理解させるようにしましょう。

例:「棒グラフは全体的な特徴を捉えやすくする」、「円グラフはデータを分類整理した際の、各項目の割合を捉えやすくする」等、様々な表やグラフの特徴を正しく理解させ、目的に応じて、適切な表やグラフを選択し、データの特徴や傾向を捉えさせるようにする。

✓ 目的に応じて必要な表やグラフを選択して判断し、その判断の理由について、子どもたちどうして話し合う学習場面を設定しましょう。

例:「表やグラフのどの内容が判断の理由になるのか」等、子どもたちが対話的な学びを通して判断の理由を考えていく活動を通じて、「友だちにもっと伝えるように説明するにはどのように説明すればいいか」等、理解や考えを深めることができるようにする。

✓ 統計的探究プロセスを回す学習活動により、統計的な問題解決活動を充実させましょう。

例:表やグラフに表したデータの特徴から結論について考察する中で、「さらにこんなことを考えてみたい」・「このことについてはどうなっているんだろう」というように、新たな疑問や課題を発見できるようにする。

【小学校理科】 目的に合わせて乾電池2個のつなぎ方を構想する問題(エネルギー領域) 2 (4)

1. 問題の概要

出題の趣旨

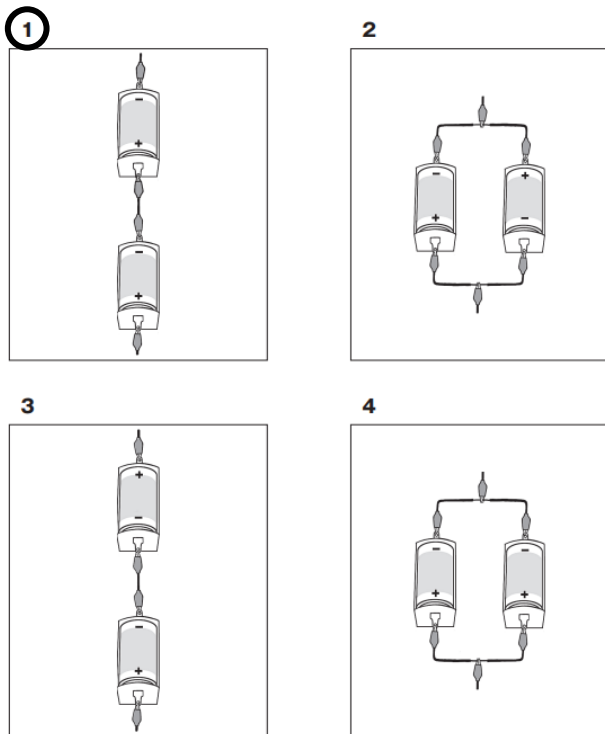
乾電池のつなぎ方について、直列つなぎに関する知識が身に付いているかどうかをみる。

学習指導要領の内容 第4学年 A 物質・エネルギー(3)ア(ア)

乾電池の数やつなぎ方を変えると、電流の大きさや向きが変わり、豆電球の明るさやモーターの回り方が変わることを理解すること。

評価の観点 知識・技能

(1)かん電池 2 個を直列につなぎ、電磁石の強さを最も強くできるのは、どのようなつなぎ方ですか。下の 1 から 4 までのの中から 1 つ選んで、その番号を書きましょう。



2. 児童の状況 (解答類型と反応率)

	解答類型	反応率(%)
1	1 と解答しているもの	49.7
2	2 と解答しているもの	30.0
3	3 と解答しているもの	9.1
4	4 と解答しているもの	10.1
99	上記以外の解答	0.2
0	無解答	0.9

ショート回路となって過電流による発熱等の危険があったり、マイナス極どうしを接続することで、電流が流れないつなぎ方になっていたりするなど、回路として成立する条件が理解できていないのではないかな。

3. 授業づくりのポイント

✓ 観察、実験において、安全面、事故防止のための注意喚起を徹底しましょう。

さまざまなつなぎ方を試行錯誤する中で、電流が大きくなる(豆電球が明るくなったりモーターが速く回転したりする)つなぎ方を見いだすことで、乾電池の直列つなぎ、並列つなぎのつなぎ方や特徴を理解する場面ではありますが、教科書でもショート回路にならないよう注意喚起がされています。また、乾電池2個の直列回路で1個を逆向きにつないでも電流は流れませんが、3個以上の場合だと電流が流れ、逆向きにつないだ乾電池に負荷がかかり、液漏れ等に至る恐れがあります。やってはならないつなぎ方を理解することで、日常生活や以降の学習場面で乾電池を使用する際に活用できる生きて働く知識となります。

✓ 「問題解決の活動」を大切にしましょう。

目的意識や見通しをもたせることで、観察や実験を何のために行っているかを明確にしましょう。例えば、電磁石を強くしなければできない課題を設定することで、児童が「電磁石を強くする」という目的に向けて、見通しをもって実験に取り組むことが期待されます。